

ほちほちとそぼふる雨に蚊遣かな

内里王塚

〔八幡志水のひがし内里村の山中にあり。内里、岩田、戸津、松井等同領の山なり。塚の高さ四間半巡八

十間、土人曰繼体天皇の陵なりとぞ、此義非なり。延喜式曰、繼体天皇の陵は撰津国島上郡なりと。帝陵御改之記に曰、

今撰津国島下郡大田村にあり、島上島下両郡の堺なり〕

牛頭天皇社

〔内里のひがし十町ばかり上津屋村にあり、土人生土神とす。例祭は九月九日〕

御霊社

〔上津屋の巽十町ばかり岩田村にあり、祭神御霊八所の其一にして文太夫の霊神なり、土人生土神とす、

例祭は九月九日〕

一口

〔淀のひがし十町ばかりにあり。民居小倉の御池の汀なれば、常に漁獵を産業とす。此所にしへは河内ある

ひは津国より宇治に至る順路なり〕

平家物語に曰

比は睦月廿日あまりの事なれば、比良の高根志賀山むかし長柄の雪もきへ、谷々の氷うち解て、水は

折節益たり。白浪夥しう漲落、瀬枕大に瀧鳴て、逆巻水も早かりけり。夜は曙と明行ど、河霧深く立籠て、馬の毛も鎧の毛もさだかならず。大將軍九郎御曹司河の端に打出、水の面を見渡て、人々の心を見んとや思はれけん、淀一口へや向ふべき、又河内路へや廻るべき、水の落足をや待べきいかゞせんと宜ふ。下略」

## 御牧<sup>みまか</sup>

「淀の大橋の北爪より八町ばかりにあり。中に多村あり、島田、相島、東一口、西一口、釘貫、中島、坊池、江口等なり。此所にしへ天子御馬寮の御牧ありて、御馬<sup>みうま</sup>を放ち飼ふゆへ此名あり」